

# 令和8年度 専門研修課程 II ・ 事例概要

## 【事例様式2】

受講番号: 999 受講日程: C日程 氏名: 群馬 花子

所属施設種別:  居宅系                       医療施設系                       福祉施設系

事例について:  現在進行形の事例                       過去に担当した事例

ケアマネ経験年数                      約                      2 年

ご自分の年代                      20代                      30代                      40代                      50代                      60代                      70代以上

事例題名: **「訓練人生」に陥りそうな利用者の支援の見直しについて**

担当としてこの事例に携わっている期間: 1 年 3 ヶ月

※提出事例が関係すると思われる主項目は◎に☑を1つ入れ、副項目は主項目で選んでいない分類に☑を1~2つ入れてください。

◎ 主項目	○ 副項目	事例分類:
<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	1.脳血管疾患のある方のケアマネジメント
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	2.認知症のある方及び家族等を支えるケアマネジメント
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	3.心疾患のある方のケアマネジメント
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	4.大腿骨頸部骨折のある方のケアマネジメント
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	5.誤嚥性肺炎の予防のケアマネジメント化
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	6.看取り等における看護サービスの活用に関する事例←
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	7. 家族への支援の視点や社会資源の活用に向けた関係機関との連携が必要な事例のケアマネジメント

### 事例について

性別 :	<u>男性</u>	生年月日:	<u>昭和15年 84才</u>
傷病名:  <u>脳出血後後遺症(右半身麻痺・失語症)</u>		要介護度:	<u>3</u>
		各自立度:	<u>B1・I</u>
		手帳等:	<u>身体手帳2級(肢体)</u>

事例の概要および提出理由  
 令和2年1月、脳出血にてA病院へ入院。回復期リハ病棟、介護老人保健施設を経て、令和4年4月に在宅となり支援開始。急性期以降、3年以上もリハビリを目的とした医療機関に入院・入所していたのは本人のリハビリ意欲が強く、厳しい機能訓練をやればやるほど「良くなる」と信じているためである。

現在、支援に関わっている機関および個人  
B通所リハビリテーション事業所、C短期入所療養介護事業所、D病院、妻、本人の姉、私(介護支援専門員)

## 家族構成・関係

分譲マンションで妻との二人暮らし。妻が主介護者で、週に2度の買い物や通院介助のため本人の姉が来て副介護者となっている。子供2人はいずれも男で、長男はE県、次男はF県在住で各々所帯持ちであり、緊急時以外はアテにならない。ご本人の兄弟は県外で疎遠。

## 生活歴および支援経過

H県生まれ。裕福な家庭に育ちJ大学(野球部)を経て、F会社に勤務。26歳で職場結婚し3年間の海外赴任を経て管理職となったが、50歳の時に脱サラして、現在地に転居しバブル期に自営業を始める。数年間は好調な経営状況だったが、バブル後は「食べていける程度」となり「店をたたんで老後を楽しもう」と考えていた矢先に発症した。

R2年5月に初回の要介護認定申請。以来、要介護3のまま。

R3年1月に入所中の介護老人保健施設の紹介で、居宅介護支援事業所と利用契約する。

R4年4月より、本人の希望で、B通所リハにて週3回と、C短期入所療養介護事業所にて月10日間のショートを利用し続けている。C短期入所療養介護事業所は、入院した急性期・回復期のD病院の系列事業所である。R5年5月のサービス担当者会議にて、B通所リハのOTより「住宅改修もなされていないし、短期入所の様子を聞くとリハ室での機能訓練ばかりで、生活リハというか生活機能向上の視点に欠けているのではないか?」という疑問が呈された。B事業所のPTと医師は「本人の希望どおりにしている。通所リハの一部分しか見ていないOTに、とやかく言われる筋合いはない」と協議・検討は打ち切られてしまった。

本人は「リハ室で杖歩行の訓練をすることが最重要で、院内・施設内を完全に歩けるようになってから自宅での生活の仕方を考えればよい」と言われたので、とにかくそれを続けることが必要だと思い、その指示に従っている。こんなことになる前に考えていたように、妻と老後を楽しみたいが、それは今の施設内を完全に歩けるようになってから考えたい。」

本人は真のニーズに気がついていないと考えられ、R5年8月に再度、サービス担当者会議を開き説明をしたところ、B事業所だけは納得してくれないために他の事業所への変更も含めて、ケアプランの全面的な見直しをしようと考えているものの、現時点において何から始めたらよいのか迷っている。

受講番号

999

氏名

研修 華子